

「加齢黄斑変性の病態解明・治療・予防法開発を目的とした遺伝子解析研究」

または

「開放、閉塞隅角緑内障の病態解明・治療・予防法開発を目的とした遺伝子解析研究」

へ健常者として参加した患者さんへ

1. 「遺伝子前眼部疾患の遺伝子解析研究」へのご協力をお願い

2019年6月より本科において実施している「遺伝性前眼部疾患の遺伝子解析研究」では、いくつかの遺伝性前眼部疾患を対象に原因遺伝子の解析を行っていますが、そのうちFuchs角膜内皮ジストロフィーでは、病気にかかっている人とかかっていない人の遺伝子を比較する必要があります。健康な方（Fuchs角膜内皮ジストロフィーにかかっていない方）のDNAが必要なことから、過去に「加齢黄斑変性の病態解明・治療・予防法開発を目的とした遺伝子解析研究」または「開放、閉塞隅角緑内障の病態解明・治療・予防法開発を目的とした遺伝子解析研究」に健常者として参加された患者さんのうち、試料および情報の二次利用（他の研究への利用）について同意をいただいている方の試料（DNA）を、Fuchs角膜内皮ジストロフィーのTCF4遺伝子解析を行う際の比較対照として利用させていただきたくご協力をお願いいたします。

2. 対象となる患者さん

- 1) 2017年8月～2018年8月に、「加齢黄斑変性の病態解明・治療・予防法開発を目的とした遺伝子解析」研究へ健常者として参加された患者さんのうち、試料および情報の二次利用について同意をいただいている患者さん
- 2) 2015年4月～2016年8月に、「開放、閉塞隅角緑内障の病態解明・治療・予防法開発を目的とした遺伝子解析」研究へ健常者として参加された患者さんのうち、試料および情報の二次利用について同意をいただいている患者さん

3. 研究期間および実施施設

「遺伝子前眼部疾患の遺伝子解析研究」の研究期間は2019年6月～2024年3月です。実施施設および責任者は下記の通りです。

＜実施施設＞大阪大学

＜研究責任者＞西田 幸二

4. 研究の目的

「遺伝子前眼部疾患の遺伝子解析研究」の目的は、前眼部疾患を発症するという生まれなが

らの体質があるかどうかを、患者さんの細胞から取り出した遺伝子を調べることによって、より正確に診断できるようにしようとするものです。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

提供された血液から抽出した DNA、年齢、性別、病歴等の情報。

※これらは全て研究用の番号で管理され、個人情報をつからなくした状態で研究に用いられます。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学医学系研究科眼科学（大阪大学医学部附属病院眼科） 大家 義則

TEL：06-6879-3456（眼科医局）